

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

十勝岳で、本日（3月30日）13時00分頃から振幅の小さな火山性微動が発生しました。この火山性微動の前後で火山活動に特段の高まりは認められていません。

十勝岳では、2021年頃から62-2火口の熱活動が活発な状態が続いていますので、今後の火山活動の推移に留意してください。

<噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続>

○活動概況（図1～4）

30日13時00分頃から継続時間約23分間の振幅の小さな火山性微動が発生しました。微動に概ね同期して、62-2火口周辺の傾斜計でわずかな傾斜変動を観測しました。十勝岳での火山性微動の発生は2023年7月4日（継続時間約29分間）以来です。

監視カメラによる観測では、62-2火口の噴煙の状況は雲のため詳細は不明ですが、火口周辺の空振計では空振は観測されていません。

62-2火口付近のごく浅部を震源とする火山性地震は概ね少ない状態で、火山性微動の発生後も活発化は認められていません。

○活動評価

十勝岳では、2021年頃から62-2火口の熱活動は活発な状態が続いており、今後の火山活動の推移にはする必要があります。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』及び『電子地形図（タイトル）』を使用しています。

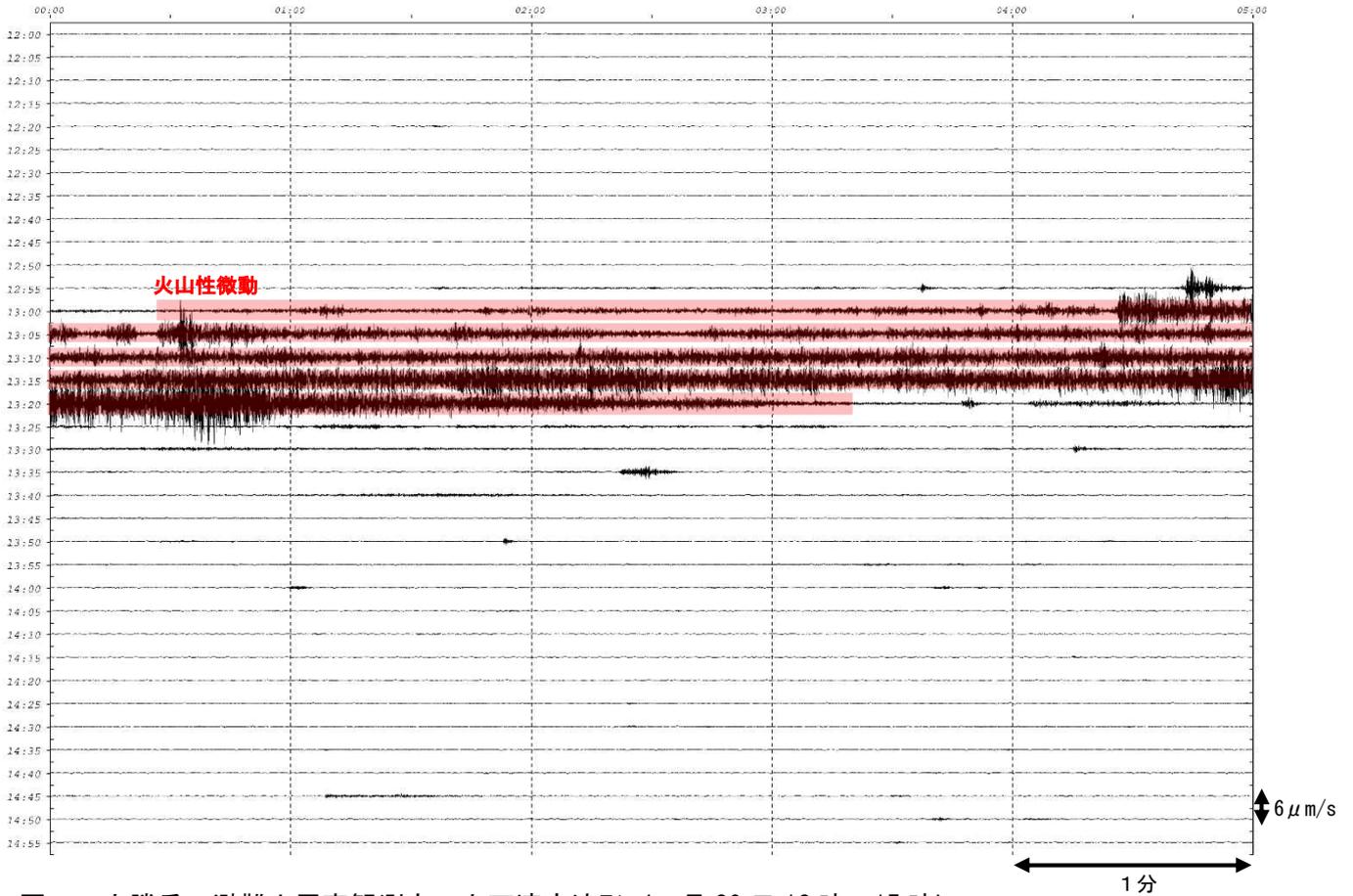


図1 十勝岳 避難小屋東観測点の上下速度波形（3月30日12時～15時）

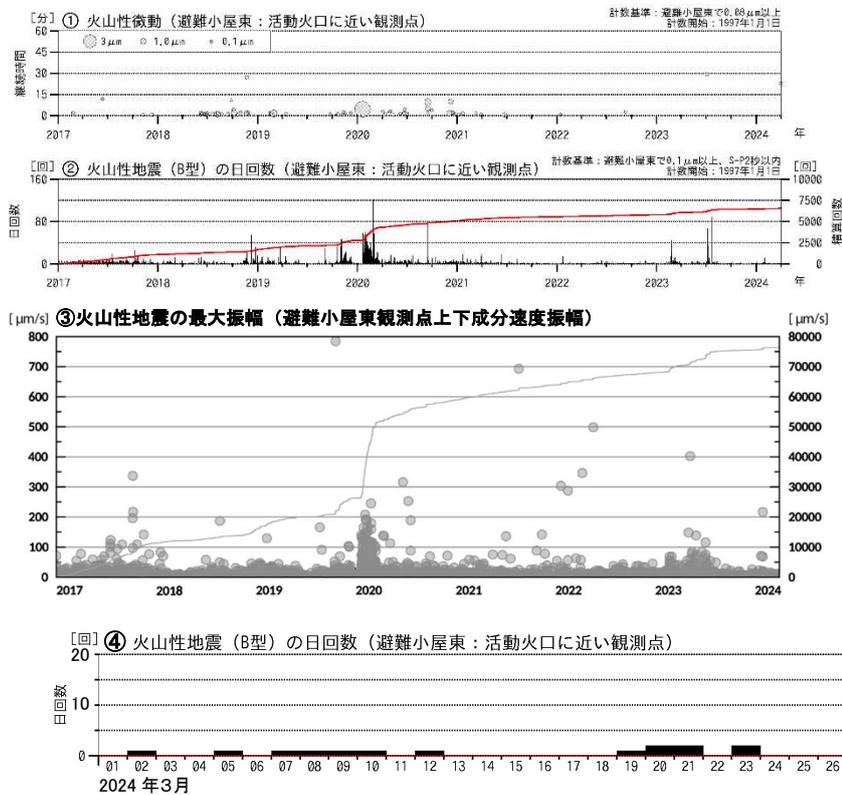


図2 十勝岳 火山性微動及び火山性地震の発生状況（①～③：2017年～2024年3月30日15時、
④：2024年3月1日～30日15時）

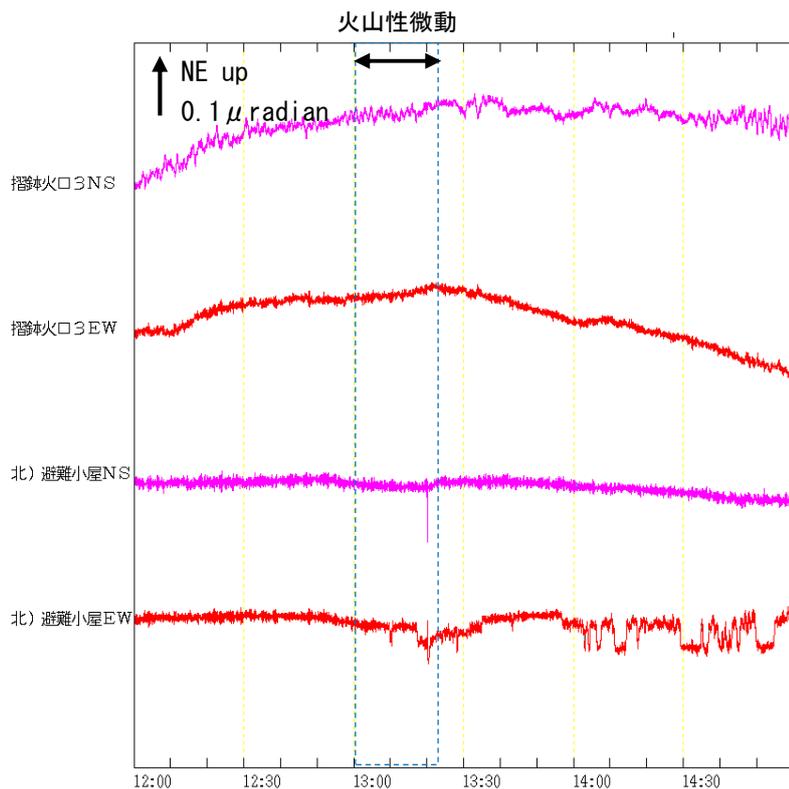


図3 十勝岳 火山性微動の発生時間前後の傾斜計の記録（3月30日12時～15時）



図4 十勝岳 北西側から見た火口周辺の状況（白金模範牧場監視カメラによる）及び火口周辺図

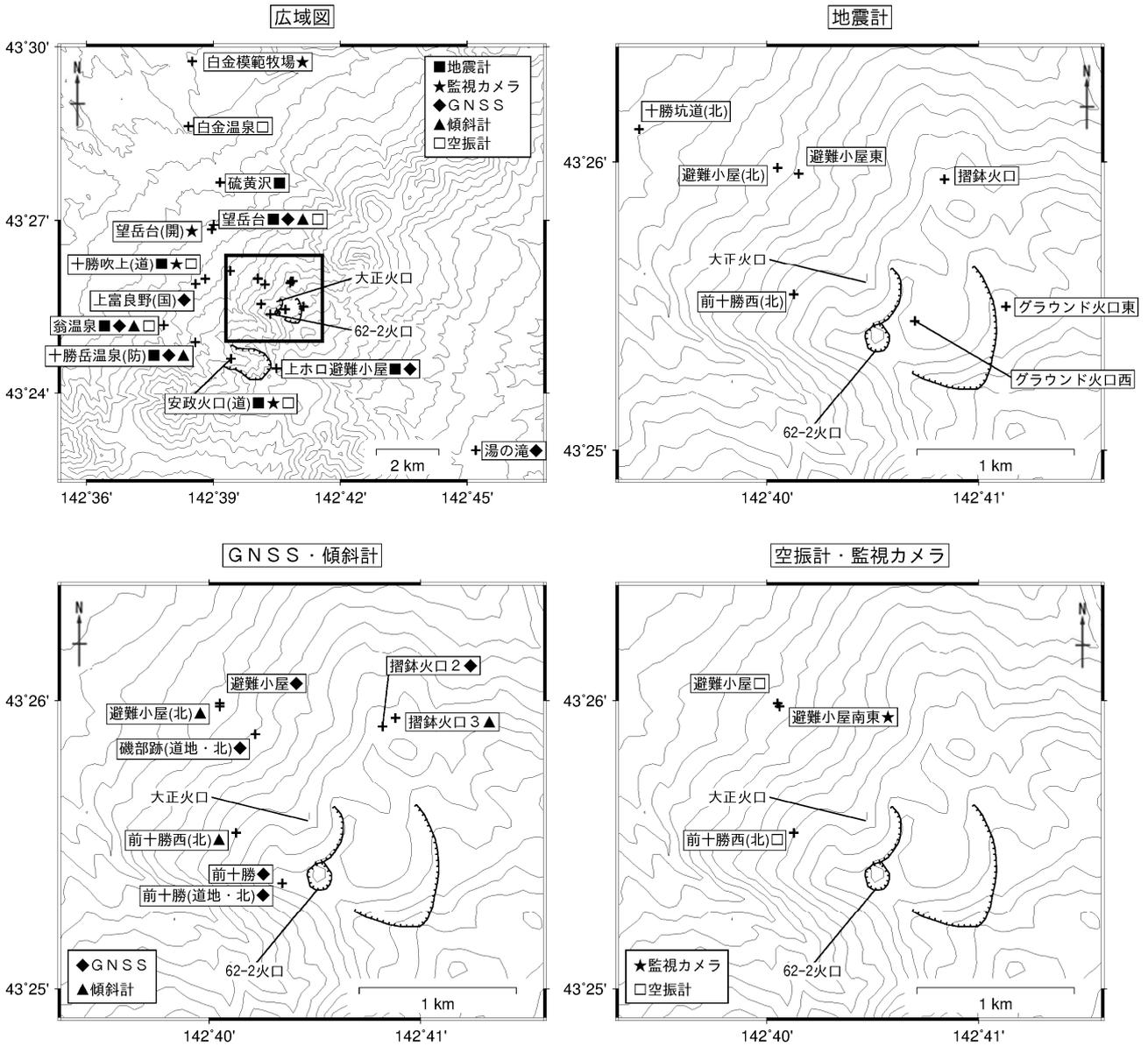


図5 十勝岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で示した領域を拡大したものです。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(開) : 国土交通省北海道開発局

(国) : 国土地理院

(北) : 北海道大学

(防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所

(道) : 北海道

(道地) : 地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所